

臨床心理学

科目責任者 野 畑 友 恵
 学年・学期 1 学年・3 学期

I. 前 文

医療の役割とは何かについて、臨床心理学の学問を通して考える。

臨床心理学は、人が適応的に生きるための支援について研究や実践を行う学問である。本講義では、医療現場における活動を取り上げ、心理支援を学ぶ。

授業では参考資料から事例を取り上げ、議論と解説で構成される。議論では、事例において何が問題でどのように支援するのかについて学生同士で話し合う。その後、実際に行われた支援を解説し、医療の役割とは何かについて、各学生が事後学習で考察する。

自ら考えることで、実践に活きる学びになる。事例と向き合い、医療に従事することについて考えてほしい。

II. 担当教員

野 畑 友 恵 (基盤教育部門)

III. 一般学習目標

医療の役割について考える。

IV. 学修の到達目標

1. 人が表出する心理状態の背景について、あらゆる可能性を挙げることができる。
2. 他者にわかりやすく自分の考えを発言したり、他者の発言内容をふまえて自分の考えを発言したりできる。
3. 学んだことを文章にまとめることができる。

V. 授業計画及び方法

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担 当 者 |
|----|----|----|----|----|--|---------|
| 1 | 11 | 11 | 水 | 4 | 医療の実践と心理支援 | 野 畑 友 恵 |
| 2 | | 18 | 水 | 3 | がん患者 (1) : 診察後に涙を流す患者 | |
| 3 | | 25 | 水 | 4 | がん患者 (2) : 抗がん剤の治療を拒む患者 | |
| 4 | 12 | 2 | 水 | 4 | がん患者遺族 : 怒りを訴える遺族 | |
| 5 | | 9 | 水 | 4 | 小児疾患の子ども (1) : 不適切なセルフケア行動により入院を繰り返す患児 | |
| 6 | 1 | 6 | 水 | 4 | 小児疾患の子ども (2) : 体調不良を訴え登校を渋る患児 | |
| 7 | | 13 | 水 | 4 | 産後の母親 : 出産後に不安を訴える母親 | |
| 8 | | 13 | 水 | 5 | 心理支援の実際 | |
| 9 | | 20 | 水 | 4 | 新人看護師 : 退勤時刻が遅くなっている看護師 | |
| 10 | | 20 | 水 | 5 | まとめ | |

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

話し合いの態度（50%）と各授業後のレポート（50%）で評価する。

話し合いの態度は、発言の質にもとづいて段階的に評価する。

レポートは、各授業後に事例から学んだ「医療の役割」についてまとめ、「わかりやすくまとめられているか」の観点で評価する。

VII. 教科書・参考図書・A V資料

[教科書]

指定しない

[参考図書]

からだの病気のこころのケア 鈴木伸一 北大路書房 2016

これからの対人援助を考える 暮らしの中の心理臨床①うつ 野村俊明・青木紀久代 福村出版 2015

VIII. 質問への対応方法

随時、受け付ける。

研究室へ来室する際は、メールで事前に予定を確認する。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | | |
|--------------------------|--|---|
| 医学知識 | 人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。 | |
| | 種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。 | |
| 臨床能力 | 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。 | |
| | 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。 | |
| プロフェッショナリズム | 医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。 | ○ |
| | 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。 | ○ |
| 能動的学修能力 | 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。 | |
| | 書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。 | |
| リサーチ・マインド | 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。 | |
| | 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。 | |
| 社会的視野 | 保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。 | |
| | 医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。 | |
| 人間性 | 医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | |
| | 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | ◎ |

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートを添削して返却します。

XI. 求められる事前学習，事後学習

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）